



## オークランド日本語補習学校通信

# ふなで



2026年2月1日発行 令和7年度 第8号

【email】[ajssnz@gmail.com](mailto:ajssnz@gmail.com) 【web】<http://www.ajss.ac.nz>

新年明けましておめでとうございます

校長 加納 直樹

1 か月は経ちましたが、2026年のオークランド日本語補習学校がスタートしました。各ご家庭におかれましては、穏やかで明るく希望に溢れた新年をお迎えのことと思います。本年も皆様方にとりましてよき年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

昨年中は、本校への保護者をはじめ、学校運営理事会、日本国総領事館、日本人会、二水会の方々からの温かいご支援・ご協力をいただきました。お陰様で、子供たちにとって充実した教育活動を展開することができました。心より感謝申し上げます。今年度も残すところ2ヶ月となりました。1年間の学習のまとめ・卒業・進級に向けての総仕上げをしっかりと行っていききたいと思います。今年も本校職員一同、心をひとつにして一人一人の子供たちの健やかな成長のため、全力を尽くしてまいります。昨年同様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本校では昨年も日本語への学習意欲を育てることを目標に、中学部全コースでVOS作文、中学部Aコースでは漢字統一試験を複数回実施いたしました。その取組の中で特に印象に残ったことは、よい結果が出たときの生徒たちの達成感に満ちた表情でした。コースに限らず初めは、お世辞にも意欲的とは言えないところからスタートし、素晴らしい結果を出すことができた生徒たちは次回に向けて目標をもち、授業だけでなく、家庭学習などにも意欲的に取り組めるようになりました。好成績は偶然ではなく、たくさんの努力を積み重ねた結果だと思っています。

昨年行われた運動会も、練習の時から手を抜くことなく一生懸命に取り組んだ子供たち《努力を惜しまなかった子供たち》は、素晴らしいパフォーマンスを披露することができました。

そんな子供たちの姿を見ていると『天才! 成功する人々の法則 (マルコム・グラッドウェル著作・勝間和代訳)』という著書に書かれてある「1万時間の法則」が思い出されます。つまり、どんな才能や技能も、1万時間、練習を続ければ「本物」になる。「努力は裏切らない」という話です。また、最近の研究によると、その道のスペシャリストになれるかどうかは、才能よりも、自分を上手に成長させる練習をたくさん積み上げるかどうかにかかっていることも分かってきています。縄跳び、鉄棒、水泳、マラソン、サッカーや野球などのスポーツ、また、いろいろな学習において、子供たちは、今、「1万分の〇〇時間」の練習をしているのかも知れません。そう考えると、とても将来が楽しみになります。

新年に、各自、具体的な目標を立てたことと思います。ぜひ、「1万時間の法則」を思い出し、より高いところを目指して、継続的にがんばれる年にしてもらいたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

「1万時間の法則」とは…

マルコム・グラッドウェル氏が提唱した法則。世界的に有名なスポーツ選手や偉大な成功を収めた起業家など、何かの分野で天才と呼ばれるようになる人達に共通しているのは、1万時間という、これまでに打ち込んできた時間が関係しているというもの。有名なイチロー選手やタイガー・ウッズ、モーツァルト、ビートルズなども1万時間以上の練習をしたと言われています。そして、マイクロソフト創業者のビル・ゲイツも中学2年生の時に初めてコンピューターに触れて以来、大学を中退するまで日夜8時間以上（1万時間以上）プログラムの開発にのめり込んでいたと言われています。

【教室の窓から】B9 作文指導

「どうやって作文や詩を書かせたらいいんですか？」という問い合わせを、よくいただきます。本やインターネットにはさまざまな方法が紹介されていますが、ここでは、私がこれまで取り組んできた方法について、少し書いてみたいと思います。作文や詩は、本来、これまでに思ったこと、感じたこと、経験したことを文章にすればよいのですが、いざとなると「なかなか難しいー！」となってしまう。

生徒たちは、考えや思い出を口ではたくさん話し、詳しく説明することができます。ところが、原稿用紙を前にすると、

「何を書いていいかわからないー！」

となってしまうことが多いのです。

そこで、

1. 写真やビデオ、あるいは自分の記憶をもとに、書きたい内容にフォーカスし、思いついたことを 順番を気にせず、白紙に30個ほど書きなぐる。
2. それらを時系列に並べ替え、感じたこと、考えたことをどんどん肉付けしていく。
3. 五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）を加える
4. そして最後に修辞法を使って完成！（修辞法については、ぜひ補習校で学んでください！）

以上が、私が取り組んできた方法です。

次にご紹介する作品は、今年のクラスの中で、たくさんのお気に入りの中から選んだ作品の一つです。ぜひ作品を堪能し、お楽しみください。

(サンドブルック ゆり)

ワカアマのレース

森田まひな

マオリ語でワカアマ

英語では、アウトリガー カヌー

二月にトレーニングを始めてから

私は、一か月半

ロトルアのブルーレイクにいる

「エブソンガール高校」

スピーカーから学校の名前を呼ぶ声

パドルを持って、二のレーンに並ぶ

蝶々がお腹にいるような不思議な気持ちだ

大きく息を吸う

指先がチクチクする

「ほんとにできるかな？」

「できるよ。」

頭の中で、そんな会話

首からぶら下げているIDをスキャンする

前のレースが終わった人が戻ってきた

今度は私たちの番だ

十二人輪になって、

マオリのお祈り

カラキアを唱える

ガラスみたいに透き通っている水

裸足で水に入る

水に入るとき

「あっ！」

と小さな声で叫んだ

氷水みたいに冷たくてさわやかだ

小さい石が私の足に刺さる

シートに座った、パドルを握って

みんなでパドルをこぎ始めた

腕にエネルギーが入る  
スタートラインにやっと着いた

静けさに息を止め、湖とひとつになる瞬間

赤から緑へ、旗が変わった

水を切って漕ぎ出す

朝日が差す、輝く湖

息を整え、心を静め、漕ぎ出す

舟は水面を滑るように進む

岸边から大きな声が聞こえる

風が私をたたき、湖の音が聞こえるようだ

青く、静かに山々を包む霧が漂い

澄んだ水面は鏡のよう

水の中には白い石たちが眠り

選手たちの息遣いは、熱く早く

舟は水面を滑るように進む

ただひたすらに漕ぐ

ただひたすらに漕ぐ

パドルの力が水をわきあがらせ

私たちは水を浴びた

突然終わりの時が来た

一瞬時が止まった

自然にうれしさがこみあげてくる

なかまと手をたたき合い、

私たちは喜びの声をあげた

## 【教職員紹介】

新井 沙織(あらい さおり) 先生



こんにちは！

オークランド日本語補習学校でB6クラスの授業と支援員をしております、新井沙織（あらい さおり）と申します。

日本では、千葉県で小学校教員として勤務していました。現在はワーキングホリデーでニュージーランドに滞在しています。

実際にこの地で生活し、多様な文化や価値観に触れる中で、改めて「学ぶこと」「ことばの大切さ」を強く感じています。

オークランド日本語補習学校の子どもたち、保護者の皆さま、そして先生方との出会いとご縁に心から感謝しています。

補習校での一日一日を大切にしながら、子どもたちと一緒に学び、成長していけたら嬉しいです。どうぞよろしくお願いたします。

2月の主な予定	
上旬	
6日(金)	Waitangi Day (休校)
15日(日)	漢字検定
14日(土)～	Aコース期末テスト期間開始(クラスによって異なる)
22日(日)	ジャパnデー
28日(土) 3月1日(日)	林間学校
3月からの主な予定	
12日(木)	Bコース学習発表会
13日(金)	Aコース学習発表会
14日(土)	Sコース修了式・卒業を祝う会
19日(木)	Aコース中学部とBコース修了式・卒業を祝う会
20日(金)	Aコース小学部修了式・卒業を祝う会
21日(土)	卒業式
26日(木)～	新年度スタート

背中は、ぴんっ!

